

2020年卒 マイナビ大学生のライフスタイル調査 集計結果報告



2019年1月

- 調査期間: 2018年11月26日(月)～2018年12月24日(月)
(前年調査:2017年11月29日(水)～2017年12月25日(月))
- 調査方法: 2018年11月26日時点のマイナビ2020会員の大学生・大学院生にWEB DMを配信。
2018年11月27日に過去のアンケート回答者にWEB DMを配信。
- 有効回答数: 4,656名 [内訳:文系男子 965名 理系男子 869名 文系女子 2,003名 理系女子 819名]

【INDEX】

■1:スマートフォンの利用状況

- (1) 保有している携帯電話の種別をお答え下さい。複数保有している方は主に使っているものについてお答えください。
- (2) スマートフォンは就職活動のどのような場面で役立つと思いますか。役立つと思う場面をすべて選択してください。(複数回答)
- (3) あなたのスマートフォンに入っていて、実際に使っているアプリを次の中からすべて選択してください。(複数回答)
- (4) スマートフォンの通信料金は誰が払っていますか。
- (5) スマートフォンを1日平均何分使っていますか。
- (6) スマートフォンを使って見る動画の長さは平均で1日何分くらいですか。
- (7) 自分で動画を撮影し、公開したことはありますか。また公開することで収入を得たことがありますか。
- (8) 自分で動画を制作し、公開して収入を得たいと思いますか。自分の考えに最も近いものを選んでください。
- (9) あなたが最もよく利用する支払方法を選択してください。(現金、カード、スマホ決済アプリから選択)
- (10) あなたが最も利用したい支払方法を選択してください。(現金、カード、スマホ決済アプリから選択)

■2:ソーシャルメディア・SNSの活用方法

- (11) よく利用するソーシャルメディア・SNSのサービス名を教えてください。(複数回答)
- (12) ソーシャルメディア・SNSについてお答えください。それぞれのサービスをどんな時に利用していますか。(複数回答)
- (13) LINEの利用開始時期を選択してください。使っていない場合は「利用したことはない」を選んでください。
- (14) あなたがソーシャルメディア・SNSでつながっている友人・知人のおおよその合計数を教えてください。
- (15) マッチングアプリを使って実際に人と会ったことはありますか。
- (16) マッチングアプリが原因でトラブルに巻き込まれたことはありますか。
- (17) 就職活動においてFacebookなどの実名を伴ったソーシャルメディア・SNSを、どの程度活用したいですか。
- (18) 就職活動におけるソーシャルメディア・SNSの活用方法はどのようなものにするつもりですか。(複数回答)
- (19) 就職活動においてソーシャルメディア・SNSを活用したくない理由はなんですか。(複数回答)

■3:インターネットの利用用途とコミュニケーションツール

- (20) インターネットをどんなことに利用していますか。(複数回答)
- (21) あなたはインターネットで「ものを買ったこと」がありますか。
- (22) 友人との主なコミュニケーションツールを選択してください。
- (23) メールは毎日チェックしますか。チェックする方はいつごろチェックすることが最も多いですか。

■4:情報源としてのメディア、社会問題、サークル、楽しみ、ストレス、現在の住まい

- (24) 情報源として最も利用しているメディアはどれですか。
- (25) 情報源として最も信頼度が高いメディアはどれですか。
- (26) 以下に挙げる社会問題のうち、興味があるものをすべて選んでください。(複数回答)
- (27) IoTという言葉、意味を知っていますか。
- (28) あなたはサークルや部活動に所属していますか。所属している方はそのサークルや部活動の種類を選択してください。
- (29) あなたが観戦に行ったことがあるスポーツをすべて選択してください。(複数回答)
- (30) あなたの人生において優先度の高いものから2つを選んでください。(2つ選択)
- (31) あなたは今何に楽しさを感じていますか。(複数回答)
- (32) あなたは誰と一緒にいるときに最も楽しさを感じますか。
- (33) あなたは今何にストレスを感じていますか。あてはまるものをすべて選択してください。(複数回答)
- (34) 「授業以外」で友人と過ごす事が最も多い場所を選択してください。
- (35) 「授業以外」で友人と過ごす時に最もよくすることを選択してください。
- (36) 現在自宅住まいですか、一人暮らしですか。
- (37) 就職した後は自宅住まい希望ですか、一人暮らし希望ですか。

■5:アルバイトについて

- (38) 大学生になったらやりたいと思っていたアルバイトは何ですか。(複数回答)
- (39) あなたは定期的なアルバイトをしていますか。
- (40) アルバイトによる収入(定期的なもの以外も含む)は1ヶ月平均でいくらですか。
- (41) あなたはアルバイトで稼いだお金を何に使っていますか。(複数回答)
- (42) 今、実際にやっている定期的なアルバイトは何ですか。(複数回答)
- (43) 現在アルバイトは週に何日程度していますか。
- (44) 現在何か所のアルバイトを掛け持ちしていますか。
- (45) あなたがアルバイトをしている時間は1週間の合計で何時間程度ですか。
- (46) あなたは自分のアルバイトなどの収入から、毎月ご両親または保護者の方にお金を納めて(渡して)いますか。
- (47) そのお金は主にどういった名目で渡していますか。
- (48) アルバイト代や親からの仕送りなどのうち、あなたが1ヶ月に自由に使えるお金の、おおよその金額を教えてください。

■6:旅行について

- (49) 国内旅行の回数(大学1年生から現在まで。宿泊を伴うもの)
- (50) 海外旅行の回数(大学1年生から現在まで。宿泊を伴うもの)
- (51) 大学1年生から現在までに行ったことのある国内旅行先の中で、もう一度行きたい旅行先(都道府県)を1つ選んでください。
- (52) 大学1年生から現在までに行ったことのある温泉地の中で、もう一度行きたい温泉地を1つ選んでください。
- (53) 国内旅行に行った際に何を目的に行きましたか。(複数回答)
- (54) 国内旅行において、大人1名1泊あたりの平均宿泊費用はいくらですか。
- (55) 大学1年生から現在までに一人旅に何回行きましたか。

■7:大学生活について

- (56) 学校には週何日通っていますか。
- (57) 平均的な1日の授業(ゼミ・研究室含む)受講時間の合計はどの程度ですか。
- (58) ゼミ・研究室に所属していますか。
- (59) 優(A)の数は取得した単位の何割くらいを占めていましたか。
- (60) 高校生のとき最も得意だった科目と最も苦手だった科目を選んでください。
- (61) あなたが現在通っている大学について、大学入学時の入試経路であてはまるものを選んでください。
- (62) あなたのファッションや身だしなみについて、周りの人からどのように言われることが多いですか。
- (63) あなたのファッションや身だしなみについて、自分自身でどのように思いますか。

■8:社会人の働き方に対するイメージ

- (64) 下記のような働き方をする「同性の社会人」「異性の社会人」について、それぞれあなたはどのように感じますか。
 - ◇ 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている
 - ◇ 指示された通り残業し、上司の信頼を得る
 - ◇ 時間内に仕事を終え、一切残業しない
 - ◇ 時間内に仕事を終え、積極的に子育てする
 - ◇ 子育てに専念するため育児休業を取得する
 - ◇ 酒の席の付き合いで上司や顧客の信頼を得る

■9:現在と将来のライフスタイルのイメージ

- (65) 以下の中からあなたが理想とする「将来の自分」像に最も近いものを選んでください。
- (66) 結婚後の仕事に関してどのように考えていますか。
- (67) 「共働きが望ましい」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (68) 「主に自分の収入のみで生活するのが望ましい」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (69) 「主に相手の収入のみで生活するのが望ましい」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (70) 結婚をするならば、何歳ごろにしたいですか。
- (71) あなたの理想の夫婦像に最も近いものを選んでください。
- (72) 子育てについて、あなたの考えに近いものを選んでください。
- (73) 「育児休業を取って」子育てしたいと回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (74) 「育児休業は取らない」と回答した最も大きな理由に近いものを選択してください。
- (75) 子供は何人欲しいですか。
- (76) ここまで結婚や育児についての質問に回答する際、あなたが最も重視したのは次のうちどれですか。

■10:両親・保護者とのコミュニケーションや就職活動との関わり方

- (77) ご両親または保護者の方とLINEで1週間に何回くらいやり取りをしますか。
- (78) ご両親または保護者の方は、あなたの就職活動に対してどの程度関心を持っていますか。
- (79) あなたと、あなたのご両親または保護者の方の間で、以下のようなことはどのくらい行われていますか。
- (80) ご両親または保護者の方の、あなたの就職活動に対する関わり方について、あなたはどのように感じていますか。
- (81) ご両親または保護者の方以外の方で、あなたの周りに自分自身の仕事の内容について話してくれる社会人の方はいますか。
いる場合は以下よりその方々とあなたの関係をすべて選択してください。(複数回答)
- (82) 前問に該当する社会人の方は合計何人いますか。

■11:就職活動や働くということについて

- (83) あなたはインターンシップに参加したことはありますか、また今後参加するつもりですか。
- (84) 就職活動におけるあなたの最大の武器は何だと思いますか。
- (85) あなたにとっての就職活動を恋愛に例えると、以下のうちどれに最も近いですか。
- (86) 次の選択肢のうちあなたに欠けていると思うものは何ですか。(複数回答)

◆集計方法について

全体の数値を算出するにあたり、文理男女別の構成比を2020年3月卒業予定の大学生・大学院生の構成比と等しくする為、文部科学省の学校基本調査を基に、ウエイトバック集計を行っている。基準数値は平成30年度学校基本調査(2018年8月公表)の大学3年生・院1年生在籍数を参照し、文理男女比を算出している。
※ウエイトバック集計とはアンケート回答者の属性構成比率が実際の属性比率と乖離している場合、構成比に合わせるように重み付けして集計すること。

※調査結果は、小数点第2位を四捨五入しております。そのため、グラフ及び表の和が100.0%にならないものがございます。予めご了承ください。

■口本資料について口■

本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社 マイナビ 社長室 リサーチ&マーケティング部

TEL : 03 (6267) 4571 / E-mail : myrm@mynavi.jp

■ 学生の属性データ

	回答数	比率
男子	1,834	39.4%
女子	2,822	60.6%
総計	4,656	100.0%

	回答数	比率
文系	2,968	63.7%
理系	1,688	36.3%
総計	4,656	100.0%

	回答数	比率
文系男子	965	20.7%
理系男子	869	18.7%
文系女子	2,003	43.0%
理系女子	819	17.6%
総計	4,656	100.0%

	計	比率	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	男子	女子	文系	理系
大学	4,066	87.3%	949	511	1,974	632	1,460	2,606	2,923	1,143
大学院	590	12.7%	16	358	29	187	374	216	45	545
総計	4,656	100.0%	965	869	2,003	819	1,834	2,822	2,968	1,688

■ 地域別分布データ

現住所地区	計	比率	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	男子	女子	文系	理系
北海道	161	3.5%	28	32	60	41	60	101	88	73
東北	220	4.7%	41	62	70	47	103	117	111	109
関東	1,819	39.1%	403	310	833	273	713	1,106	1,236	583
甲信越	107	2.3%	20	22	42	23	42	65	62	45
東海	551	11.8%	112	102	251	86	214	337	363	188
北陸	114	2.4%	23	40	30	21	63	51	53	61
関西	997	21.4%	236	147	449	165	383	614	685	312
中国	215	4.6%	31	44	79	61	75	140	110	105
四国	92	2.0%	13	21	31	27	34	58	44	48
九州	370	7.9%	57	89	150	74	146	224	207	163
海外	10	0.2%	1	-	8	1	1	9	9	1
総計	4,656	100.0%	965	869	2,003	819	1,834	2,822	2,968	1,688

■ 国公立・私立別分布データ

国公立地区別	計	比率	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	男子	女子	文系	理系
関東国公立	278	6.0%	28	98	78	74	126	152	106	172
関東私立	1,566	33.6%	378	216	770	202	594	972	1,148	418
関西国公立	244	5.2%	29	70	83	62	99	145	112	132
関西私立	762	16.4%	207	82	366	107	289	473	573	189
その他国公立	860	18.5%	97	279	258	226	376	484	355	505
その他私立	946	20.3%	226	124	448	148	350	596	674	272
総計	4,656	100.0%	965	869	2,003	819	1,834	2,822	2,968	1,688

■ 都道府県別分布データ

地域区分	都道府県	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	計	地域区分	都道府県	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子	計
北海道	北海道	28	32	60	41	161	関西	滋賀県	21	17	33	19	90
	青森県	7	7	8	3	25		京都府	40	46	91	27	204
	岩手県	2	4	7	5	18		大阪府	94	54	175	54	377
	宮城県	23	30	31	22	106		奈良県	62	20	113	40	235
	秋田県	1	5	3	5	14		兵庫県	14	9	33	21	77
	山形県	3	7	10	6	26		和歌山県	5	1	4	4	14
	福島県	5	9	11	6	31		鳥取県	1	4	2	4	11
関東	茨城県	10	14	29	20	73	中国	島根県	-	5	1	2	8
	千葉県	9	12	9	4	34		岡山県	5	17	19	18	59
	栃木県	7	9	13	4	33		広島県	17	15	45	26	103
	群馬県	69	43	141	47	300		山口県	8	3	12	11	34
	埼玉県	48	44	95	57	244		徳島県	3	7	7	10	27
	東京都	157	108	337	81	683		香川県	2	5	7	4	18
	神奈川県	103	80	209	60	452		愛媛県	8	6	12	6	32
甲信越	新潟県	2	14	20	11	47	四国	高知県	-	3	5	7	15
	山梨県	8	2	13	3	26		福岡県	32	46	83	30	191
	長野県	10	6	9	9	34		佐賀県	-	3	4	5	12
東海	岐阜県	14	13	25	13	65	九州	長崎県	5	6	14	11	36
	静岡県	15	11	29	11	66		熊本県	5	9	15	8	37
	愛知県	74	66	185	51	376		大分県	5	7	6	2	20
	三重県	9	12	12	11	44		宮崎県	3	6	8	5	22
	富山県	7	11	4	4	26		鹿児島県	4	9	12	11	36
北陸	石川県	12	21	15	14	62	海外	沖縄県	3	3	8	2	16
	福井県	4	8	11	3	26		海外	1	-	8	1	10

【TOPICS】

◆スマホ決済アプリを「最も利用したい」学生は9.9%。女子より男子のほうがやや希望者が多い

図1 実際に使っているアプリの種類（複数回答）

男子		女子	
1位	地図アプリ 86.5%	1位	カメラアプリ 90.1%
2位	就職サイトのアプリ 77.7%	2位	地図アプリ 87.8%
3位	カメラアプリ 76.8%	3位	就職サイトのアプリ 84.4%
4位	電車乗換アプリ 75.1%	4位	電車乗換アプリ 80.9%
5位	音楽再生アプリ 71.3%	5位	音楽再生アプリ 73.2%
6位	動画再生アプリ 69.2%	6位	動画再生アプリ 66.0%
7位	ゲームアプリ 68.9%	7位	写真加工・アルバム作成アプリ 63.7%
8位	メモアプリ 54.3%	8位	メモアプリ 63.0%
9位	ニュースアプリ 48.0%	9位	ゲームアプリ 52.9%
10位	スケジュール管理アプリ 42.1%	10位	バーコード読み取りアプリ 43.7%
※実際に使っている種類の数平均 10.3		※実際に使っている種類の数平均 11.4	

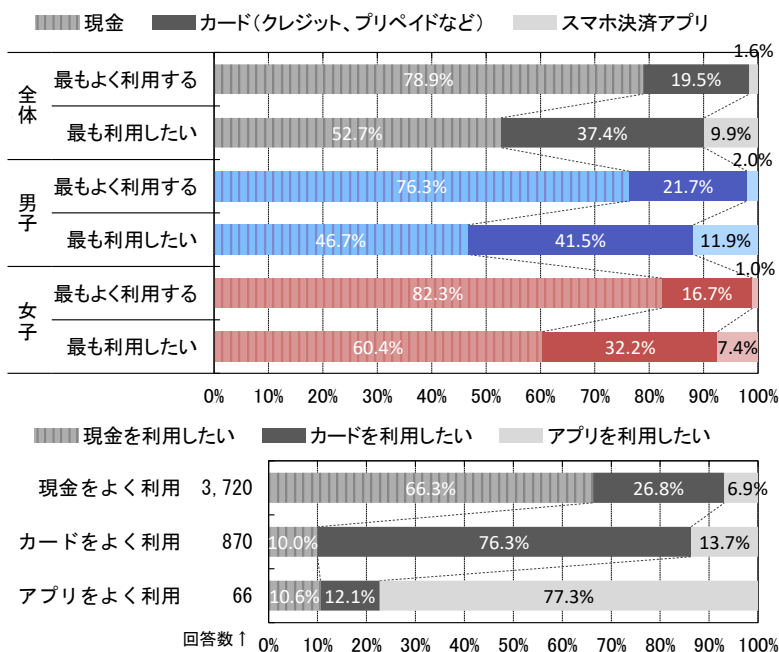
20年卒学生のスマートフォン保有率は99.4%（前年比0.6pt増）、1日平均の利用時間は190.7分（前年比16.3pt増）だった。

スマートフォンを保有している学生に、アプリの種類を27挙げ、実際に使っているものをすべて選んでもらったところ、最も使っている割合が高かったのは、男子は「地図アプリ」、女子は「カメラアプリ」だった。「就職サイトのアプリ」は男子で2位、女子で3位にランクインした。

男女で比較すると、実際に使っている種類の数の平均は、男子10.3種類に対し、女子11.4種類で、女子の方が多くの種類のアプリを使っている。また、27種類のうち18種類で女子の割合が男子より高い。男子の割合が5%以上高いのは、「ゲームアプリ」（男子 7位 68.9%、女子 9位 52.9%）と「ニュースアプリ」（男子 9位 48.0%、女子 14位 35.7%）だけだ。女子の割合が男子を最も大きく上回っているのは「写真加工・アルバム作成アプリ」（男子 15位 32.7%、女子 7位 63.7%）で、女子がスマートフォンで写真を撮るだけでなく、その写真を活用して楽しんでいる様子が見える。

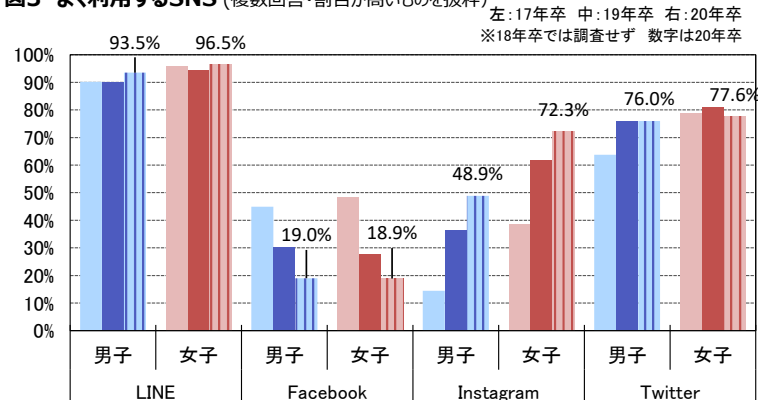
スマホ決済アプリの活用状況や利用希望を知るため、「現金」「カード（クレジット、プリペイドなど）」「スマホ決済アプリ」の中から、「最もよく利用する」支払方法と「最も利用したい」支払方法を選択してもらった。「最もよく利用する」割合は、「現金」約8割（78.9%）、「カード」約2割（19.5%）、「スマホ決済アプリ」は1.6%に過ぎなかった。「最も利用したい」割合も「スマホ決済アプリ」は1割程度（9.9%）で、増える余地はありそうだが、まだまだ希望者は少ない。「アプリ」希望は男子の方が女子よりやや多い。また「カード」を最もよく利用する学生は「現金」を最もよく利用する学生よりも「アプリ」利用希望割合が高いが、それでも13.7%で、多くは「カード」の利用を続けたいと考えている。

図2 最もよく利用する支払方法、最も利用したい支払方法（現金・カード・アプリ）



◆Instagramの利用割合がさらに増加。SNSでつながっている人数の平均は300人弱

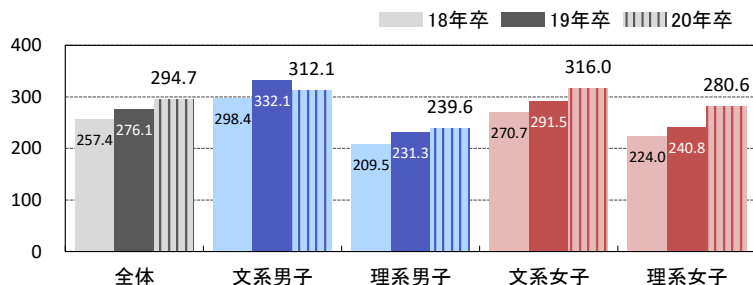
図3 よく利用するSNS（複数回答・割合が高いものを抜粋）



「よく利用するSNS」について聞いたところ、「Instagram」をよく利用する学生の割合は前年よりさらに増加し、男子の半数弱、女子の7割強だった（男子 48.9%、前年比12.5pt増：女子 72.3%、前年比10.6pt増）。「Facebook」をよく利用する学生はさらに減り、男女とも2割を切った（男子 19.0%、前年比11.2pt減：女子 18.9%、前年比8.7pt減）。「Twitter」や「LINE」は前年と大きく変わらなかった。

流行語にもなった「TikTok」は、男子 5.2%、女子 3.9%で、男子の方が利用割合が高い。また、「Slack」は理系男子で7.6%（前年比3.0pt増）と他の分類より利用割合がかなり高い。これは、主に情報系の研究室で「Slack」をチームコミュニケーションツールとして活用しているケースがあるためと考えられる。

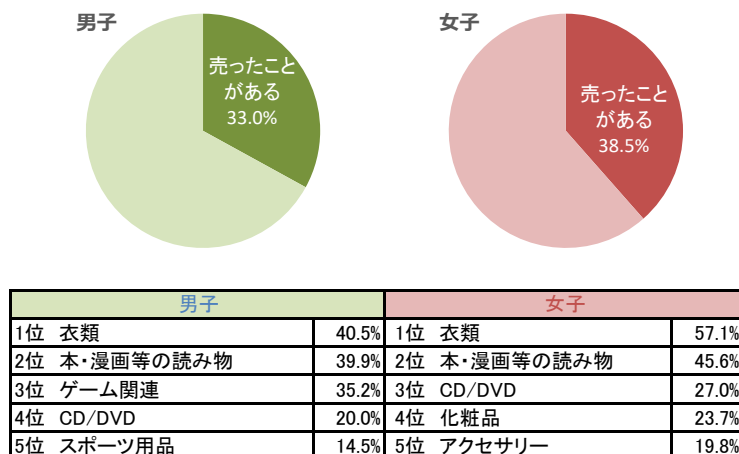
図4 SNSでつながっている友人/知人の平均数（単位：人）



SNSでつながっている友人/知人の数を聞いたところ、全体の平均は294.7人（前年比18.6pt増 / 増加率+6.3%）と、2年連続で増加した。文理男女別で見ると、最も多いのは文系女子の316.0人（前年比24.5pt / 増加率+7.8%）で、前年比で最も増えたのは理系女子（280.6人、前年比39.8pt / 増加率+14.2%）だった。

◆男子の33.0%、女子の38.5%がインターネットでものを売ったことがあると回答

図5 インターネットでものを売ったことがあるか、売ったことがあるもの（複数回答）



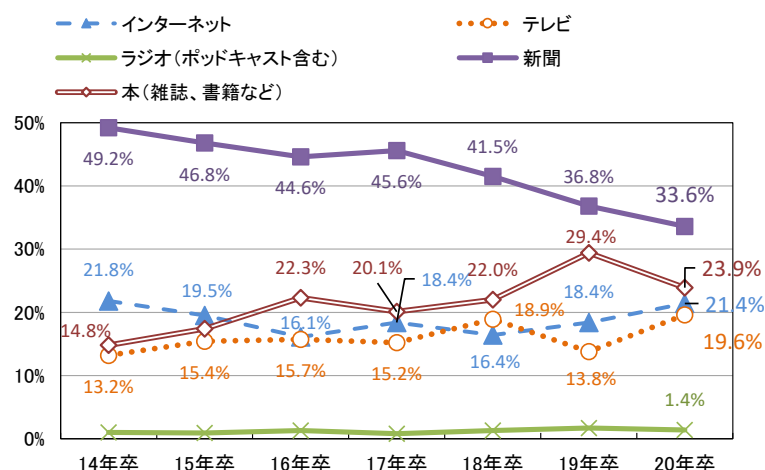
フリマアプリなどを使ってインターネットでものを売ったことがあるか聞いたところ、売ったことがあるのは男子学生の33.0%、女子学生の38.5%で、女子の方が割合が高かった。

売ったことがある学生に売ったことがあるものを聞いたところ、男女とも1位は「衣類（男子 40.5%、女子 57.1%）」で、2位は「本・漫画等の読み物（男子 39.9%、女子 45.6%）」だった。それぞれを売ったことがある割合はいずれも女子の方が高い。女子がこれらを売ったことがある割合は他を引き離して高いため、女子にとってはこの2種類のものを売ることがフリマアプリ利用の主な目的だと考えられる。

その他上位に挙がっていたものでは、男子は「ゲーム関連（3位、35.2%）」「スポーツ用品（5位、14.5%）」の割合が高く、女子は「化粧品（4位、23.7%）」「アクセサリー（5位、19.8%）」の割合が高かった。

◆「新聞」が7年連続で「最も信頼度が高いメディア」となるも、割合は過去最低

図6 情報源として最も信頼度が高いメディア



情報源として「最も利用しているメディア」について聞いたところ、圧倒的に割合が高いのは「インターネット（85.3%、前年比3.1pt増）」で、その割合は14年卒の調査開始以来最高だった。

情報源として「最も信頼度が高いメディア」について聞いたところ、最も割合が高いのは7年連続で「新聞（33.6%、前年比3.2pt減）」だった。しかし、その割合は年々減少し、14年卒の調査開始以来最低だった。一方、「インターネット（21.4%、前年比3.0pt増）」「テレビ（19.6%、前年比5.8pt増）」という回答はそれぞれ前年よりやや割合が増加し、「本（雑誌、書籍など）（23.9%、前年比5.5pt減）」の割合が減少した。「インターネット」の割合は調査開始の14年卒以降は減少したが、ここ2年は増加に転じており、「インターネット」上の情報をそのまま信じてしまう傾向はやや高くなっていると言えそうだ。

◆女子は「少子化・働く女性支援」に最も興味あり。「いじめ・教育問題」にも高い関心

図7 興味のある社会問題（複数回答）

	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒
文系男子				
1位 非正規社員・労働問題	35.9%	32.5%	34.3%	37.6%
2位 高齢化社会・介護問題	33.6%	38.3%	44.6%	42.6%
3位 国際政治問題・民主化運動	32.6%	37.1%	40.5%	41.4%
4位 少子化・働く女性支援	32.4%	36.8%	40.4%	37.0%
5位 景気動向・国際市場動向	29.6%	36.7%	38.0%	44.6%
6位 地域振興・地元の活性化	29.6%	30.6%	33.8%	34.8%
理系男子				
1位 地球温暖化	40.6%	38.4%	44.5%	45.1%
2位 高齢化社会・介護問題	34.6%	36.3%	41.0%	37.8%
3位 景気動向・国際市場動向	33.5%	37.6%	38.5%	38.5%
4位 非正規社員・労働問題	30.6%	25.0%	25.7%	22.3%
5位 少子化・働く女性支援	27.7%	30.5%	31.3%	27.5%
文系女子				
1位 少子化・働く女性支援	59.0%	64.7%	68.5%	67.5%
2位 いじめ・教育問題 *今年から追加	36.6%	-	-	-
3位 LGBT	35.8%	32.9%	23.8%	18.9%
4位 高齢化社会・介護問題	34.8%	39.5%	43.9%	44.1%
5位 非正規社員・労働問題	32.9%	32.1%	34.6%	35.9%
理系女子				
1位 少子化・働く女性支援	59.0%	61.2%	66.8%	66.0%
2位 高齢化社会・介護問題	37.7%	44.4%	52.3%	53.2%
3位 地球温暖化	37.4%	36.1%	39.9%	41.8%
4位 いじめ・教育問題 *今年から追加	29.4%	-	-	-
5位 非正規社員・労働問題	25.2%	22.5%	23.3%	22.3%

18の社会問題の中から興味のあるものをすべて選択してもらったところ、選択した数は全体の平均で4.4だった。多くの学生が4つ〜5つ程度の社会問題に興味を持っていることが分かる。これらの社会問題にまったく興味がないという回答は全体の4.6%と非常に少なかった。

文系男子で最も割合が高いのは「非正規社員・労働問題（35.9%、前年比3.4pt増）」で前年の7位から大きくランクアップした。この問題は他の分類の学生でも割合が増加し、それぞれトップ5にランクインしている（理系男子4位、文系女子・理系女子はともに5位）。2位は前年1位の「高齢化社会・介護問題（33.6%、前年比4.7pt減）」で、割合は下がったものの、他の分類でも依然トップ5に入っている（理系男子・理系女子2位、文系女子4位）。

理系男子の1位は4年連続で「地球温暖化（40.6%、前年比2.2pt増）」だった。理系女子でも3位に入っており（37.4%、前年比1.3pt増）、理系学生の割合が文系に比べてかなり高い。

文系女子・理系女子の1位はともに4年連続で「少子化・働く女性支援（文系女子 59.0%、前年比5.7pt減；理系女子 59.0%、前年比2.2pt減）」だった。

今年初めて加えた選択肢の中では、「いじめ・教育問題（文系女子 36.6%；理系女子 29.4%）」が多く選択され、文系女子で2位、理系女子で4位にランクインした。

◆野球観戦に行ったことがある学生は6割強で男女ともに最多。サッカー、バスケットボールが続く

図8 観戦に行ったことがあるスポーツ（複数回答）

	全体	男子	女子
1位 野球	60.3%	65.7%	53.4%
2位 サッカー	37.6%	43.5%	30.1%
3位 バスケットボール	15.4%	15.4%	15.5%
4位 マラソン、駅伝	11.9%	11.4%	12.5%
5位 陸上競技	10.8%	12.1%	9.0%
6位 バレーボール	10.7%	8.4%	13.6%
7位 テニス	8.4%	8.1%	8.9%
8位 ラグビー	7.8%	9.5%	5.8%
9位 ダンス	6.6%	3.7%	10.3%
10位 水泳	6.4%	6.3%	6.5%
11位 バドミントン	4.9%	4.2%	5.7%
11位 卓球	4.9%	5.6%	4.0%

36の選択肢から観戦に行ったことがあるスポーツをすべて選択してもらったところ、最も割合が高いのは「野球（60.3%）」だった。男女とも最も割合が高く（男子 65.7%：女子 53.4%）、2位の「サッカー（37.6%）」、3位の「バスケットボール（15.4%）」に大きな差をつけている。上位に入ったスポーツで、男女差が大きいものを見ると、男子の割合が高いのは「陸上競技（男子4位 12.1%）」「ラグビー（男子6位 9.5%）」「卓球（男子10位 5.6%）」、女子の割合が高いのは「バレーボール（女子4位 13.6%）」「ダンス（女子6位 10.3%）」「バドミントン（女子11位 5.7%）」だった。

◆人生における優先度は男女とも「お金」の割合が年々増加。一方「仕事」の割合は減少傾向

図9 人生において優先度の高いもの（2つ選択）

	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒
男子				
1位 家族	38.5%	40.6%	35.7%	50.7%
2位 お金	26.6%	23.0%	21.6%	19.3%
3位 友情	25.1%	22.6%	22.9%	16.6%
4位 自分	25.0%	23.6%	27.3%	19.9%
5位 仕事	22.6%	29.1%	28.7%	36.6%
6位 趣味	22.4%	22.1%	23.3%	24.4%
女子				
1位 家族	52.3%	51.0%	52.5%	59.9%
2位 自分	29.1%	28.9%	28.4%	24.8%
3位 友情	27.7%	26.1%	25.2%	23.0%
4位 お金	22.5%	20.7%	20.2%	16.3%
5位 趣味	20.2%	21.8%	21.2%	21.0%
6位 仕事	16.2%	18.4%	18.8%	25.9%

人生において優先度の高いものを10の選択肢の中から2つ選んでもらったところ、男女とも「家族」の割合が最も高かった（男子 38.5%、前年比2.1pt減：女子 52.3%、前年比1.3pt増）。「お金」は男子で2位、女子で4位に入り、男女とも3年連続で割合が増加した（男子 26.6%、前年比3.6pt増：女子 22.5%、前年比1.8pt増）。一方、「仕事」は男子で前年の2位から5位に下がり、女子は前年同様6位だったが、割合は男女とも前年より減少した（男子 22.6%、前年比6.5pt減：女子 16.2%、前年比2.2pt減）。就職活動前とは言え、「仕事」の優先度が低い学生が増えているのは、採用する企業の側から見れば懸念すべき問題だと言える。

◆「楽しさ」を感じるものは文理男女とも「会って話す」、「ストレス」を感じるものは「就職活動」

図10 今何に「楽しさ」を感じているか（複数回答）

文系男子		文系女子	
1位 会って話す	44.0%	1位 会って話す	58.0%
2位 ゲーム	30.7%	2位 旅行	40.4%
3位 サークル・部活動	28.2%	3位 SNS (Instagram、Twitterなど) を見る	39.4%
4位 音楽鑑賞	26.1%	4位 音楽鑑賞	39.3%
5位 旅行	25.7%	5位 食事	39.2%
理系男子		理系女子	
1位 会って話す	44.4%	1位 会って話す	57.1%
2位 ゲーム	37.3%	2位 食事	44.2%
3位 音楽鑑賞	28.1%	3位 睡眠	38.6%
4位 旅行	26.1%	4位 音楽鑑賞	37.2%
5位 映画鑑賞	25.4%	4位 SNS (Instagram、Twitterなど) を見る	37.2%

今何に「楽しさ」を感じるかについて、34の選択肢からすべて選んでもらったところ、文理男女とも「会って話す」が最も多く選ばれた。男子より女子の方が割合が高く、文理とも6割弱の学生が選択している（文系女子 58.0%、理系女子 57.1%）。各分類のトップ5を見たところ、共通してランクインしたのは「音楽鑑賞（理系男子3位、文系男子・文系女子・理系女子4位）」だった。男子の割合が高いのは「ゲーム」で、文理とも2位となったが（文系男子 30.7%、理系男子 37.3%）、女子では文理とも10位以下だった。女子の割合が高いのは「SNS（Instagram、Twitterなど）を見る」や「食事」などだった。また、理系女子では3位に「睡眠（38.6%）」が入った。研究などで忙しく、寝るのだけが楽しみといった学生がかなりの数いるのだろうか。

図11 誰と一緒にいるときに最も「楽しさ」を感じるか

男子		女子	
1位 友達と2・3人有的时候	46.2%	1位 友達と2・3人有的时候	43.8%
2位 彼女と一緒にいるとき	20.2%	2位 彼氏と一緒にいるとき	22.7%
3位 大勢の友達と一緒にいるとき	11.1%	3位 家族と一緒にいるとき	14.4%
4位 一人有的时候	9.9%	4位 一人有的时候	7.8%
5位 家族と一緒にいるとき	5.8%	5位 大勢の友達と一緒にいるとき	6.9%

誰と一緒にいるときに最も「楽しさ」を感じるかは、男女とも「友達と2・3人有的时候」が最多で、ともに4割を超えた。2位も男女とも「彼氏彼女と一緒にいるとき」だった。「大勢の友達と一緒にいるとき」は男子の割合が高く、「家族と一緒にいるとき」は女子の割合が高かった。

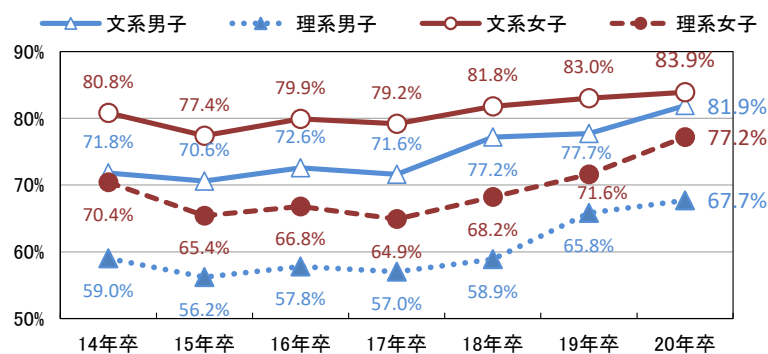
図12 今何に「ストレス」を感じているか（複数回答）

文系男子		文系女子	
1位 就職活動	48.7%	1位 就職活動	63.5%
2位 勉強	22.9%	2位 金銭問題	27.6%
3位 金銭問題	22.1%	3位 アルバイト	26.6%
4位 アルバイト	20.3%	4位 勉強	25.0%
5位 ゼミ・研究活動	17.9%	5位 ゼミ・研究活動	21.7%
理系男子		理系女子	
1位 就職活動	47.6%	1位 就職活動	57.3%
2位 ゼミ・研究活動	28.4%	2位 勉強	29.5%
3位 勉強	28.0%	3位 ゼミ・研究活動	27.0%
4位 金銭問題	21.5%	4位 金銭問題	22.7%
5位 アルバイト	16.6%	5位 友人関係	21.9%

今何に「ストレス」を感じるかについて、18の選択肢からすべて選んでもらったところ、文理男女とも「就職活動」が1位となり、本格的な活動開始を前に、すでに多くの学生の「ストレス」源となっていることが分かった。「就職活動」にストレスを感じている割合は男子の5割弱、女子の6割前後となっている。各分類のトップ5を見ると、「勉強」「金銭問題」「ゼミ・研究活動」が共通した「ストレス」源であることが分かる。選択した「ストレス」の数の平均は、男子の2.6に対し、女子は3.2で、女子の方が比較的多くの「ストレス」を抱えているようだ。

◆1ヶ月のアルバイト収入平均は約4万円。定期的なアルバイトをしている割合は過去最高

図13 定期的なアルバイトをしている割合



定期的なアルバイトをしている割合は全体で78.4%（前年比2.8pt増）で、3年連続増加し14年卒の調査開始以来過去最高だった。文理男女別でもすべて前年より増加し過去最高を更新したが、特に理系女子（77.2%、前年比5.6pt増）で前年からの増加割合が高い。アルバイト求人市場における人手不足の深刻化も、アルバイトをしている割合の増加の一因かもしれない。

アルバイトによる収入の1カ月平均（定期的なものの以外のアルバイトも含む）は約4万円（3万9,562円）だった。文理男女別でも最も収入が多かったのは文系男子の4万5,061円で、文系の方が理系より収入が多い傾向があった。1週間に定期的なアルバイトをしている日数やアルバイトをしている時間でも文系が理系を上回っており、それが収入差につながっていると考えられる。

また、1ヶ月に5万円以上の収入がある学生が43.9%存在する一方、アルバイトによる収入がない（0円）という学生も15.1%いて、かなり差が開いている印象だ。

なお、定期的なアルバイトをしている学生に絞ると、1カ月平均のアルバイト収入は4万7,593円だった。

図14 アルバイトによる収入平均・分布（1ヶ月平均。定期的なもの以外も含む）

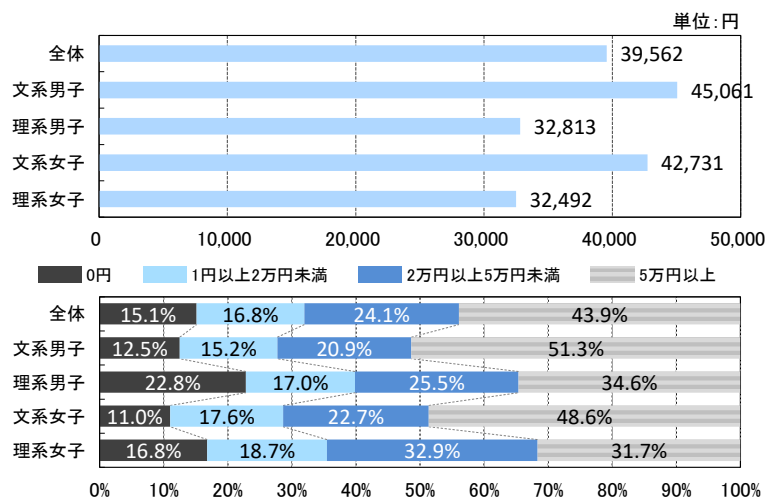


図15 1週間のアルバイト日数・アルバイト時間平均

	文系男子	理系男子	文系女子	理系女子
1週間のアルバイト日数平均 (単位: 日)	3.1	2.7	3.0	2.6
1週間のアルバイト時間平均 (単位: 時間)	16.7	13.8	16.2	13.0

◆1ヶ月に自由に使えるお金の平均は約3万5千円。約3人に1人は「5万円以上使える」

図16 アルバイトで稼いだお金を何に使っているか（複数回答）

男子		女子			
1位	ふだんの食事	63.0%	1位	ショッピング	67.2%
2位	交際(飲み会等を含む)	55.8%	2位	交際(飲み会等を含む)	67.1%
3位	ショッピング	50.4%	3位	ふだんの食事	62.2%
4位	日用品	28.4%	4位	旅行	42.6%
5位	旅行	26.4%	5位	美容(エステ、ネイル、散髪等)	40.3%
6位	映画、音楽	26.0%	6位	日用品	38.7%
7位	彼女・友達等へのプレゼント	25.8%	7位	彼氏・友達等へのプレゼント	34.9%
8位	部活・サークル	21.1%	8位	映画、音楽	31.7%
9位	ゲーム	19.3%	9位	部活・サークル	22.2%
10位	家賃、水道光熱費、通信費	16.7%	10位	学習、資格取得、運転免許取得	16.5%

アルバイトで稼いだお金を何に使っているかを複数回答で聞いたところ、男子では「ふだんの食事（63.0%）」、女子では「ショッピング（67.2%）」が1位だった。「ふだんの食事」は男女で差がないが、「ショッピング」は男子より女子の割合がかなり高い。男女差が大きいもので、男子の方が割合が高いのは「ゲーム（男子 19.3%、女子 6.6%）」くらいで、他の多くは女子の方が割合が高い。特に「旅行（男子 26.4%、女子 42.6%）」、「美容（エステ、ネイル、散髪等）（男子 11.9%、女子 40.3%）」では大きな差がたった。

1ヶ月に自由に使えるお金の金額を聞いたところ、全体の平均は3万4,847円で前年よりやや減少した（前年比524円減）。理系より文系の方がやや多くなっているが、アルバイト収入ほどの差はついていない。自由に使えるお金が5万円以上の学生の割合は33.4%で、アルバイト収入が5万円以上の学生の割合（43.9%）より10pt以上低くなっている。また、定期的なアルバイトをしている学生の自由に使えるお金の平均は3万7,235円で、定期的なアルバイトしていない学生の平均（2万5,728円）より1万円以上多かった。

図17 1ヶ月に自由に使えるお金の平均および分布

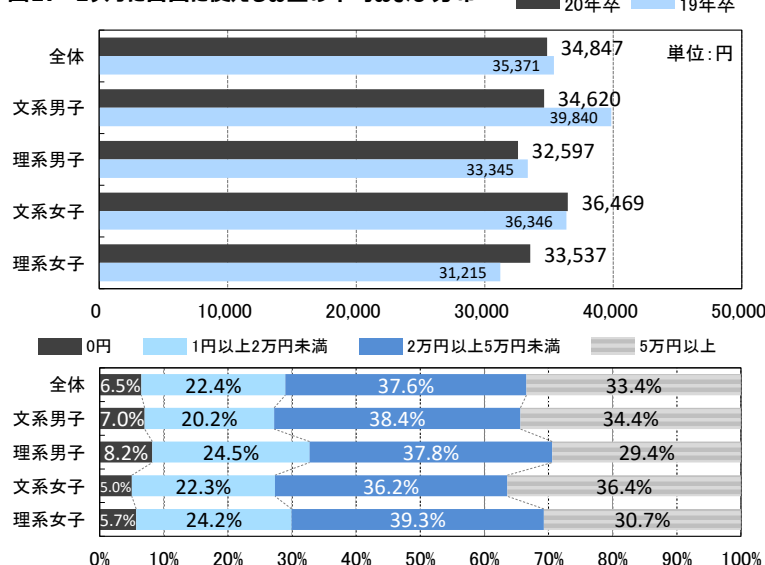
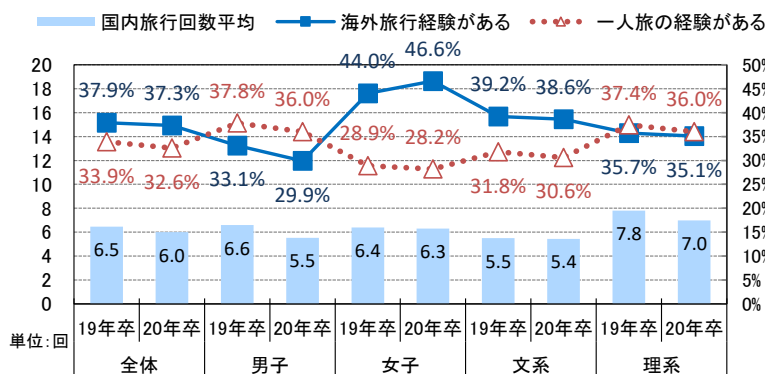


図18 1ヶ月に自由に使えるお金・定期的なアルバイト有無別

単位: 円	全体	男子	女子
定期的なアルバイトをしている学生	37,235	36,011	37,964
定期的なアルバイトをしていない学生	25,728	26,560	24,984

◆海外旅行に行ったことのある割合は37.3%。もう一度行きたい温泉地の1位は箱根温泉

図19 大学1年生から現在までの国内旅行回数・海外旅行経験・一人旅経験



旅行経験について聞いたところ、大学1年生から現在までの国内旅行の回数は平均で6.0回で、前年より0.5pt減少した。女子（平均6.3回）の方が男子（平均5.5回）より回数が多く、理系（平均7.0回）の方が文系（平均5.4回）より多い。海外旅行の経験がある割合は全体で37.3%と前年より0.6pt減った。女子（46.6%）の方が男子（29.9%）より割合がかなり高く、文系（38.6%）の方が理系（35.1%）より割合がやや高かった。一人旅の経験がある割合は全体で32.6%と前年より1.3pt減少し、男子（36.0%）の方が女子（28.2%）より割合が高く、理系（36.0%）の方が文系（30.6%）より割合が高かった。

もう一度行きたい温泉地を聞いたところ、最も選択割合が高かったのは「箱根温泉（神奈川県）」で、以下「草津温泉（群馬県）」「下呂温泉（岐阜県）」「城崎温泉（兵庫県）」「熱海温泉（静岡県）」の順だった。

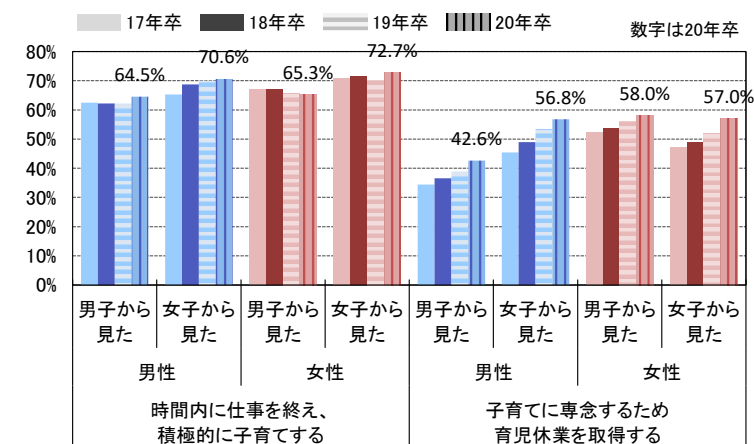
学生の在住地区別で集計したところ、在住地に近い温泉を選択する傾向が強いことが分かった。関東、東海、関西の学生はそれぞれ1位・2位は地区内の温泉だが（1位・2位 関東＝箱根・草津、東海＝下呂・熱海、関西＝城崎・有馬）、3位は隣の地区の温泉だった（関東＝熱海、東海＝箱根、関西＝下呂）。一方、北海道と九州の学生は1位から3位まですべてそれぞれの地区内の温泉が入った（北海道 1位 登別、2位 定山溪、3位 洞爺湖）（九州 1位 別府、2位 由布院、3位 黒川）。

図20 もう一度行きたい温泉地・学生の在住地区別順位

↓全体順位	北海道	関東	東海	関西	中国	九州
回答数 →	161	1,819	551	997	215	370
1位 箱根温泉(神奈川県)	5位	1位	3位	7位	9位	6位
2位 草津温泉(群馬県)	7位	2位	7位	10位	-	9位
3位 下呂温泉(岐阜県)	12位	8位	1位	3位	7位	9位
4位 城崎温泉(兵庫県)	12位	14位	10位	1位	3位	9位
5位 熱海温泉(静岡県)	-	3位	2位	12位	14位	-
6位 別府温泉郷(大分県)	-	7位	8位	5位	2位	1位
7位 道後温泉(愛媛県)	12位	6位	5位	4位	1位	7位
8位 有馬温泉(兵庫県)	12位	11位	4位	2位	9位	15位
9位 鬼怒川温泉(栃木県)	-	4位	16位	20位	9位	9位
10位 由布院温泉(大分県)	5位	11位	11位	8位	5位	2位
11位 登別温泉(北海道)	1位	9位	6位	10位	7位	15位
12位 蔵王温泉(山形県)	7位	10位	14位	23位	-	15位
12位 黒川温泉(熊本県)	7位	21位	13位	17位	6位	3位

◆「育児休業を取得する」男性を「すごくかわいい」と感じる女子は3年連続で増加

図21 育児に関する働き方の印象（「すごくかわいい」の割合）



社会人の働き方における「残業」「育児休業」という側面において、それぞれ学生がどのように感じているのかを、「同性の社会人」「異性の社会人」それぞれについて調査した。

<働き方の例>

- ◇ 時間内に仕事を終え、積極的に子育てする
- ◇ 子育てに専念するため育児休業を取得する
- ◇ 毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている
- ◇ 時間内に仕事を終え、一切残業しない

<選択肢>

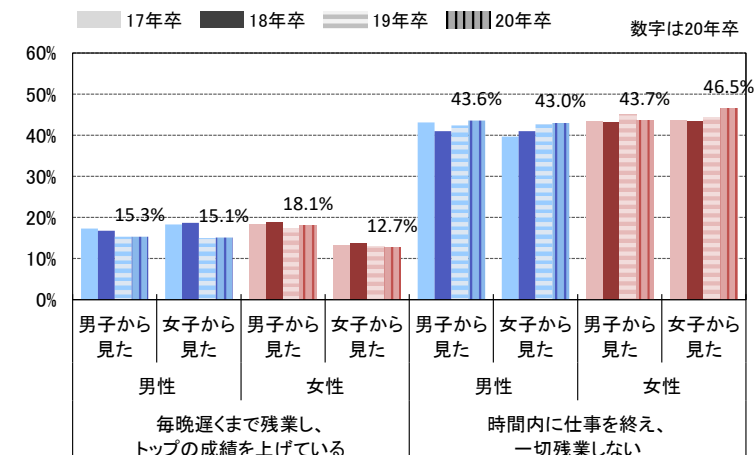
「すごくかわいい」「まあまあかわいい」「どちらとも言えない」「あまりかわいくない」「かわいくない」※「すごくかわいい」と回答した割合をグラフ化

育児に関する働き方の印象について聞いたところ、「時間内に仕事を終え、積極的に子育てする」男性を女子が「すごくかわいい」と感じる割合は、3年連続で増加した。また「子育てに専念するため育児休業を取得する」を「すごくかわいい」と感じる割合は、4通りの組み合わせすべてで3年連続増加した。特に「子育てに専念するため育児休業を取得する」男性を女子が「すごくかわいい」と感じる割合（56.8%）は、「子育てに専念するため育児休業を取得する」女性を女子が「すごくかわいい」と感じる割合（57.0%）とほぼ同じとなり、女子から見た場合、男性女性で差がなくなった。

厚生労働省の調査によると、2017年度の男性の育児休業取得率は5.14%（前年比1.98pt増、平成29年度雇用均等基本調査）とわずかに増加している。

残業に関する働き方の印象については、「毎晩遅くまで残業し、トップの成績を上げている」を「すごくかわいい」と感じる割合はほぼ前年と変わらず、「時間内に仕事を終え、一切残業しない」を「すごくかわいい」と感じる割合も大きな変化は見られなかったため、残業しない働き方の方がかなり印象が良い状況は変わらなかった。

図22 残業に関する働き方の印象（「すごくかわいい」の割合）



◆女子が結婚後「共働きを望む」割合は初の7割超、専業主婦志向は男子でやや増加

図23 結婚後の仕事に関してどのように考えているか

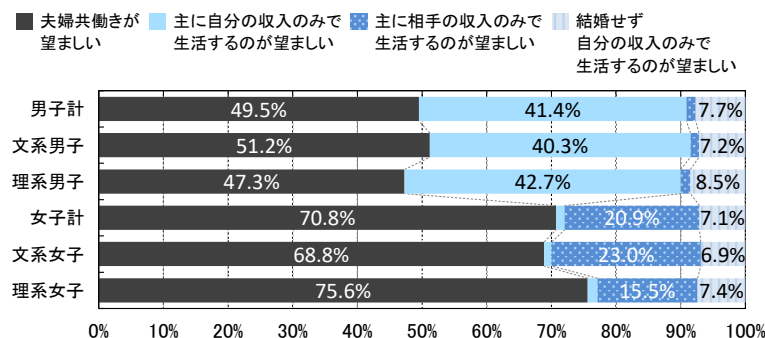


図24 共働き志向の推移

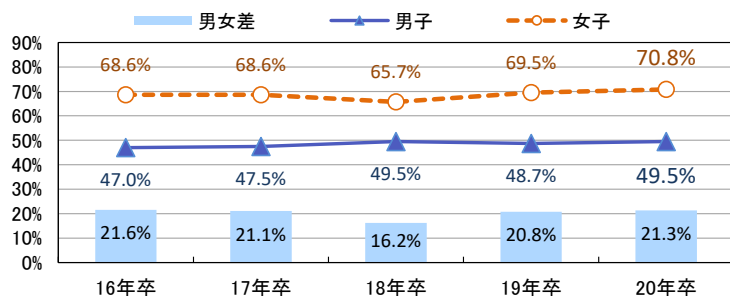
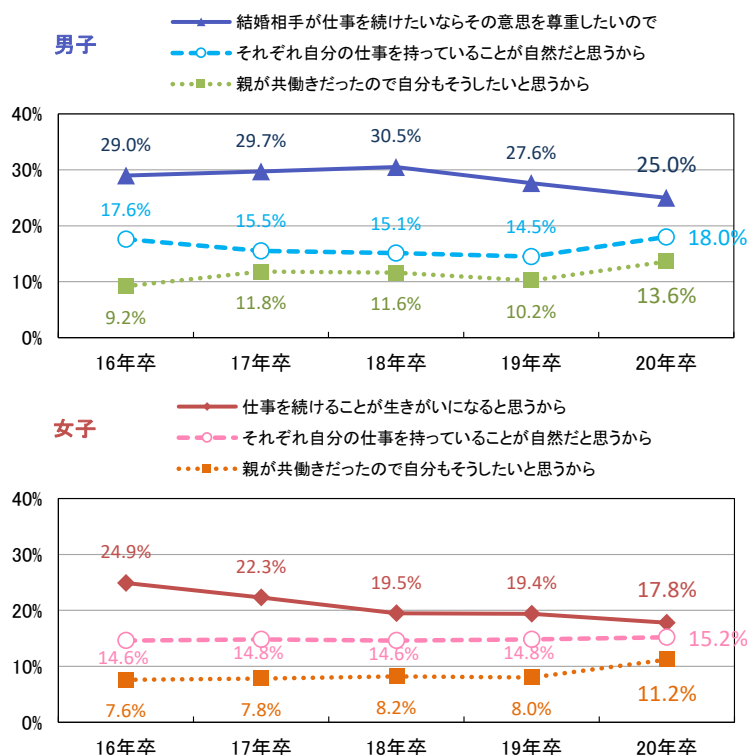


図25 共働きが望ましい理由の推移（男女別、抜粋）



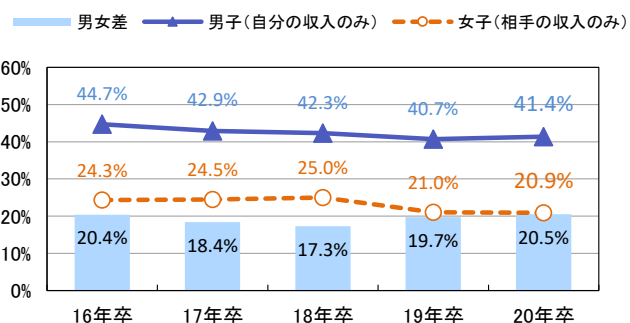
結婚後の仕事に関しての考えを聞いたところ、「夫婦共働き」を希望する割合は、男子 49.5%（前年比0.8pt増）、女子 70.8%（前年比1.3pt増）で男女ともわずかに増加した。16年卒の調査開始以来、女子の共働き希望割合が7割を超えたのは初めてとなる。

「共働きが望ましい」と考える理由では、男子の最多の「結婚相手が仕事を続けたいならその意思を尊重したいので」は2年連続で減少し（25.0%、前年比2.6pt減）、女子の最多の「仕事を続けることが生きがいになると思うから」もわずかに減少した（17.8%、前年比1.6pt減）。その一方、男女とも「親が共働きだったので自分もそうしたいと思うから」の割合が増加しており、2世代にわたって共働きという家庭が増えているようだ。

男子の「主に自分の収入のみで生活するのが望ましい」と女子の「主に相手の収入のみで生活するのが望ましい」を専業主婦志向として定義すると、男子はわずかに増加し、女子はほぼ前年並みだった。男女差の経年変化を見ると、男子の「配偶者が専業主婦になることを希望する」割合が女子の「自らが専業主婦になることを希望する」割合より2割程度高い状態が5年間継続している。

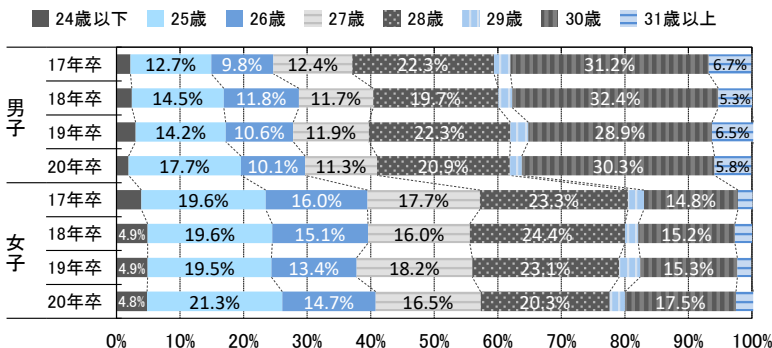
また、男子が「主に自分の収入のみで生活するのが望ましい」を選んだ理由で最も高いのは、前年同様「結婚相手に苦勞をかけたくない（楽をしてほしい）から」（35.6%、前年比3.0pt増）だった。女子の「主に相手の収入のみで生活するのが望ましい」を選んだ理由で最も高いのは前年同様「家事や子育てに専念したい」（47.8%、前年比3.4pt増）だった。

図26 専業主婦志向の推移



◆結婚したい年齢の平均は男子28.2歳、女子27.3歳。平均初婚年齢よりも早い結婚を希望

図27 結婚をするならば、何歳ごろにしたいか



結婚を希望する人に、結婚をするなら何歳頃にしたいか聞いたところ、男子の平均は28.2歳、女子の平均は27.3歳だった。3年前からの推移は男子28.3歳→28.2歳→28.3歳→28.2歳、女子27.2歳→27.3歳→27.3歳→27.3歳でほとんど変わっていない。厚生労働省の調査（2017年人口動態統計）によると、平均初婚年齢は夫31.1歳、妻29.4歳で、実情よりも平均で2、3年早く結婚したいと考えているようだ。年齢別での回答割合では、男子では「25歳」（17.7%、3.5pt増）、女子では「30歳」（17.5%、2.2pt増）の割合が増加した。

◆理想の夫婦像は約4割が「親友みたいな関係」、約4人に1人が「いつまでも恋人同士」

図28 あなたの理想の夫婦像に最も近いもの

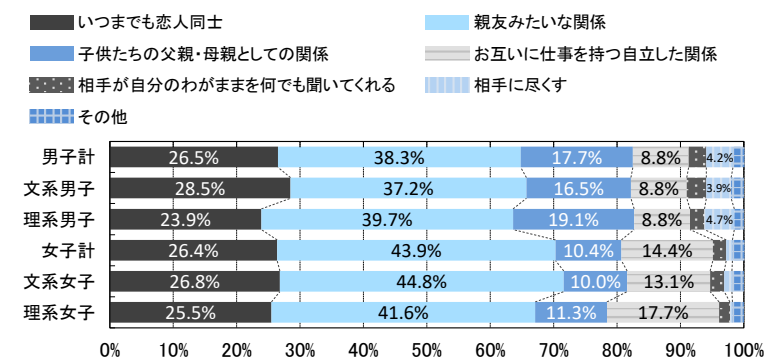


図29 理想の夫婦像別・共働き志向と結婚希望年齢

理想の夫婦像	回答数	共働き希望割合		平均結婚希望年齢(単位:歳)	
		男子	女子	男子	女子
いつまでも恋人同士	1,138	48.8%	71.1%	27.8	26.8
親友みたいな関係	1,799	51.9%	75.7%	28.3	27.3
子供たちの父親・母親としての関係	572	50.7%	70.2%	28.2	27.2
お互いに仕事を持つ自立した関係	527	86.6%	95.8%	29.1	28.1
相手が自分のわがママを何でも聞いてくれる	100	43.5%	57.4%	28.7	27.3
相手に尽くす	98	45.8%	50.0%	28.0	27.2

◆「育児休業をとって積極的に子育てしたい」男子の割合は4年連続増加で43.6%

図30 子育てについて、あなたの考えに近いもの

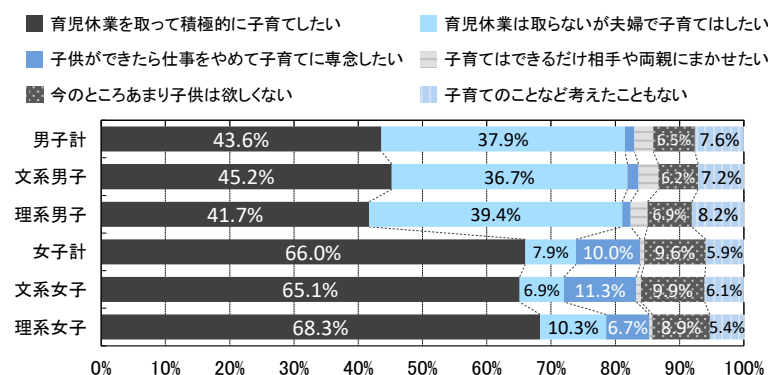


図31 「育児休業をとって積極的に子育てしたい」の割合推移

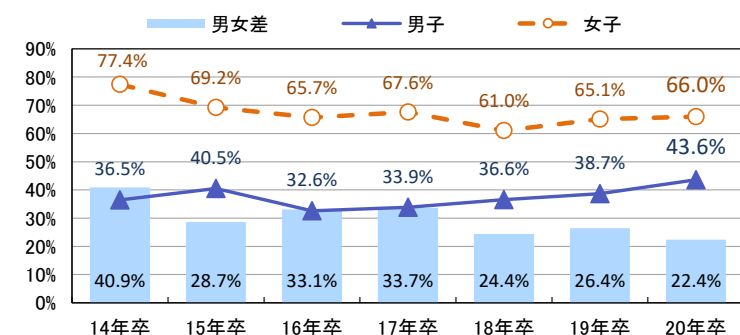
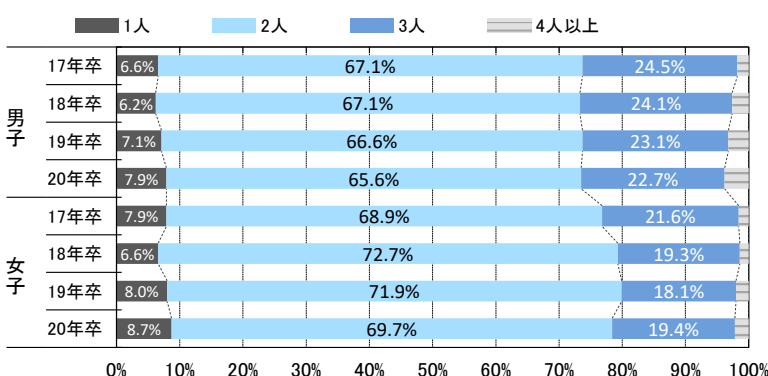


図32 子供は何人欲しいか



理想の夫婦像に近いものを6つの選択肢から選んでもらったところ、男女とも「親友みたいな関係」という回答が最も多かった（男子 38.3%、女子 43.9%）。女子の方が男子よりやや割合が高い。次が「いつまでも恋人同士」で、こちらは男女とも約4人に1人とほぼ同じ割合だった

（男子 26.5%、女子 26.4%）。3番目に多かったのは男子は「子供たちの父親・母親としての関係（17.7%）」、女子は「お互いに仕事を持つ自立した関係（14.4%）」だった。また、「相手に尽くす」は男子の方が多かった（男子 4.2%、女子 1.0%）。

理想の夫婦像の違いが結婚後の働き方の希望に影響するか調べてみたところ、「お互いに仕事を持つ自立した関係」を理想とする人は男女とも「共働き」希望割合が非常に高かった。また女子の「親友みたいな関係」を理想とする人も比較的「共働き」希望の割合が高い。

理想の夫婦像の違いは結婚希望年齢にも影響している。「お互いに仕事を持つ自立した関係」を理想とする人は男女とも結婚希望年齢が平均より約1歳ほど高かった。逆に「いつまでも恋人同士」を理想とする人は、男女とも平均より約0.5歳ほど結婚希望年齢が低かった。

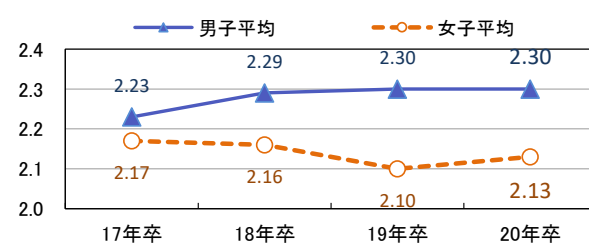
子育てについての考えを聞いたところ、「育児休業を取って積極的に子育てしたい」と回答した割合は、男子は43.6%（前年比4.9pt増）、女子は66.0%（前年比0.9pt増）で、特に男子で増加割合が高かった。経年の推移を見ると、男子の割合は16年卒以降4年連続で増加している。「子育てに専念するため育児休業を取得する」男性の働き方に対する女子の評価が上がるにつれ、育児休業の取得を希望する男子が増えてきているようだ。男女差は22.4%で14年卒の調査開始以来最小値だった。

「育児休業を取って積極的に子育てしたい」と回答した学生に対して理由を質問したところ、男女とも前年同様「子供が小さいうちはできるだけばいいてあげたいから」という回答が最も多かった（男子 30.6%、前年比0.6pt増；女子 42.2%、前年比3.7pt減）。また特に男子で「育児期間中は育児に専念したいから」を選ぶ割合が増加している（25.6%、前年比5.2pt増）。

子どもを持つことを考えていない人以外に、子供は何人欲しいか聞いたところ、2人という回答が男女とも非常に高い割合となった（男子 65.6%、女子 69.7%）。平均では男子2.30人、女子2.13人で、男子の方がやや多い。過去4年間の推移を見ると、男子は最小2.23人～最大2.30人、女子は最小2.10人～最大2.17人で、大きな変化はなかった。

厚生労働省の統計（人口動態統計）によると、2017年の調査で「一人の女性が一生の間に生む子どもの数（合計特殊出生率）」は1.43で、子供が欲しい人は統計上の数字より多くの数の子供を持つことを希望していることが分かる。

図33 子供は何人欲しいか・平均人数の推移（単位：人）



◆文系女子の「就職活動における最大の武器」の1位は「コミュニケーション能力」、3位は「笑顔」

図34 就職活動におけるあなたの最大の武器

文系男子	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位 サークル活動・部活動の経験	19.2%	21.4%	21.0%	17.4%	19.1%
2位 コミュニケーション能力	14.5%	13.9%	13.9%	10.2%	15.8%
3位 アルバイト経験	11.5%	10.7%	13.5%	10.2%	9.1%
4位 忍耐力・粘り強さ	10.9%	11.5%	12.9%	17.0%	14.0%
5位 学校で学んだ専門知識	9.4%	9.9%	5.6%	7.2%	5.4%
理系男子	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位 学校で学んだ専門知識	23.7%	22.7%	20.6%	20.1%	22.3%
2位 忍耐力・粘り強さ	13.6%	12.4%	18.5%	16.9%	15.3%
3位 サークル活動・部活動の経験	13.1%	14.4%	13.6%	16.0%	14.6%
3位 コミュニケーション能力	13.1%	12.7%	10.7%	12.6%	12.2%
5位 アルバイト経験	7.1%	6.1%	6.9%	5.2%	6.7%
文系女子	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位 コミュニケーション能力	15.1%	14.3%	12.2%	12.5%	12.2%
2位 サークル活動・部活動の経験	14.8%	16.4%	14.6%	14.9%	16.0%
3位 笑顔	12.4%	10.3%	12.4%	14.1%	12.1%
4位 忍耐力・粘り強さ	12.2%	14.8%	15.7%	17.9%	16.5%
5位 アルバイト経験	11.9%	11.7%	14.6%	12.4%	12.8%
理系女子	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位 学校で学んだ専門知識	16.5%	18.6%	19.5%	16.2%	15.1%
2位 忍耐力・粘り強さ	15.1%	16.5%	17.9%	22.9%	19.1%
3位 コミュニケーション能力	13.9%	13.6%	12.0%	7.5%	12.9%
4位 サークル活動・部活動の経験	11.2%	11.7%	10.8%	13.2%	11.5%
5位 笑顔	10.3%	9.4%	9.2%	8.1%	11.5%

「就職活動におけるあなたの最大の武器だと思うもの」では、文系男子は「サークル活動・部活動の経験」（19.2%、前年比2.2pt減）の割合が5年連続で最も高く、文系女子は「コミュニケーション能力」

（15.1%、前年比0.8pt増）の割合が最も高かった（前年は3位）。理系は男女とも「学校で学んだ専門知識」（理系男子 23.7%、前年比1.0pt増；理系女子 16.5%、前年比2.1pt減）の割合が最も高かった（理系男子では5年連続トップ、理系女子では3年連続トップ）。

文理男女のトップ5を見ると、共通してランクインしているのは「サークル活動・部活動の経験」「コミュニケーション能力」「忍耐力・粘り強さ」の3つだった。「コミュニケーション能力」が最大の武器だという学生の割合はすべての分類で増加した。一方、「忍耐力・粘り強さ」の割合は、理系男子を除いて減少した。女子では「笑顔」が文系で3位、理系で5位に入った（文系女子 12.4%、理系女子 10.3%）。

新たに選択肢に加えた「留学経験・海外経験」は最も割合が高い文系女子で2.3%だった。

◆就職活動を恋愛にたとえると「自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する」

図35 あなたの就職活動を恋愛に例えたとどれに最も近いのか

男子	20年卒	19年卒	18年卒
1位 自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する	34.1%	34.6%	30.3%
2位 最愛の人を振り向かせるため自分を磨く	22.1%	22.5%	23.5%
3位 相手の気を引くため様々な作戦を試みる	12.3%	11.3%	10.3%
4位 誰にも愛されないのではという恐怖感にさいなまれる	6.4%	6.2%	6.2%
5位 最悪の相手を選ばないように用心深く振舞う	4.9%	4.3%	5.0%
女子	20年卒	19年卒	18年卒
1位 自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する	38.0%	35.7%	33.8%
2位 最愛の人を振り向かせるため自分を磨く	18.7%	19.7%	20.6%
3位 誰にも愛されないのではという恐怖感にさいなまれる	10.1%	12.1%	10.3%
4位 相手の気を引くため様々な作戦を試みる	8.4%	8.5%	7.5%
5位 最悪の相手を選ばないように用心深く振舞う	6.1%	6.1%	5.2%

「あなたの就職活動を恋愛に例えたとどれに最も近いのか」では、男女とも「自分の理想に最も近いのは誰なのか冷静に分析する」の割合が5年連続で最も高かった（男子 34.1%、前年比0.5pt減；女子 38.0%、前年比2.3pt増）。2位は男女とも「最愛の人を振り向かせるため自分を磨く」だった（男子 22.1%、前年比0.4pt減；女子 18.7%、前年比1.0pt減）。男子の3位は「相手の気を引くため様々な作戦を試みる」（12.3%、前年比1.0pt増）、女子3位は「誰にも愛されないのではという恐怖感にさいなまれる」（10.1%、前年比2.0pt減）だった。

◆「あなたに欠けていると思うもの」、男子は「コミュニケーション能力」が最多

図36 あなたに欠けていると思うもの（複数回答）

男子	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位 コミュニケーション能力	37.8%	38.0%	34.8%	37.9%	36.5%
2位 自分の長所をアピールする力	37.2%	40.7%	38.0%	42.4%	44.3%
3位 友人関係の広いネットワーク	28.0%	30.5%	28.5%	33.6%	33.0%
4位 行動力	27.4%	27.1%	24.3%	28.5%	28.9%
5位 情報収集力	25.7%	23.6%	17.5%	22.2%	22.8%
6位 就活に対する「やる気」	23.3%	20.3%	18.1%	18.1%	21.0%
7位 ストレス耐性	21.8%	21.6%	23.0%	22.4%	22.5%
8位 臨機応変に対応する力	21.3%	22.5%	22.1%	22.0%	23.5%
9位 社会人になるための心の準備	20.9%	24.6%	18.0%	20.2%	22.8%
10位 健康・体力	8.9%	11.5%	-	-	-
この中に欠けているものはない	2.6%	3.3%	3.0%	4.9%	3.3%
女子	20年卒	19年卒	18年卒	17年卒	16年卒
1位 自分の長所をアピールする力	45.0%	46.4%	42.9%	47.7%	47.7%
2位 コミュニケーション能力	37.0%	37.8%	37.4%	38.3%	37.7%
3位 友人関係の広いネットワーク	31.2%	34.6%	31.7%	36.7%	39.6%
4位 ストレス耐性	28.2%	29.5%	28.6%	29.8%	28.4%
5位 行動力	27.6%	28.9%	26.0%	28.5%	30.4%
6位 社会人になるための心の準備	26.1%	30.7%	23.9%	25.8%	25.3%
7位 情報収集力	25.5%	28.1%	23.4%	25.9%	28.7%
7位 就活に対する「やる気」	25.5%	26.3%	23.3%	23.5%	25.2%
9位 臨機応変に対応する力	22.1%	26.3%	25.2%	28.2%	28.2%
10位 健康・体力	13.3%	15.7%	-	-	-
この中に欠けているものはない	1.3%	1.4%	1.6%	1.3%	1.6%

「あなたに欠けていると思うもの」では、女子は5年連続で「自分の長所をアピールする力」（45.0%、前年比1.4pt減）の割合が最も高かったのに対し、男子は前年2位の「コミュニケーション能力」（37.8%、前年比0.2pt減）が最も高い割合となった。「コミュニケーション能力」が欠けている割合は女子でも2位と高い割合だった（37.0%、前年比0.8pt減）。最大の武器が「コミュニケーション能力」という学生も多いため、就職活動において差が付きやすい属性だと言える。

前年との比較では「社会人になるための心の準備」の割合が男女とも低くなり（男子 20.9%、前年比3.7pt減；女子 26.1%、前年比4.6pt減）、心の準備ができていない学生がやや増えたようだ。一方、男子で「就活に対するやる気」が欠けている学生が増えた（23.3%、前年比3.0pt増）。

男女差が大きいのは、「自分の長所をアピールする力」（女子 + 7.8pt）、「ストレス耐性」（女子 + 6.4pt）、「社会人になるための心の準備」（女子 + 5.2pt）で、いずれも女子の方が欠けている割合が高くなっている。欠けているものの数の平均は男子が2.5、女子が2.8で、女子の方がやや多かった。